



DAIKO
GROUP

2021

大幸グループCSR 報告書

事業活動を継続し、
SDGs 達成に向けた社会づくりを



だいちゃん

みらいちゃん

CSRを活用し、
ESDを広げよう!



当グループのCSR報告書を教材に、持続可能な開発のための教育 (ESD) を展開。
国連のSDGs 4.7 達成に貢献します。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

【お問い合わせ先】
大幸グループ CSR 事務局

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

■携帯電話からのアクセス

e-mail: sea-mew@daiko-group.com

右のバーコードを対応端末で読みとっていただければ、

直接サイトにアクセスできます。

<http://www.daiko-group.com/>



この印刷物は環境に配慮した
「ベジタブルインキ」で
印刷されています。

弊社は暴力団等反社会的勢力との取り引きは一切行いません (ホームページ掲載)

2022.4.1000

資源リサイクルの新時代を切り拓く 製造業としての事業が いよいよスタートします

事業活動継続の最大の課題として ウイズコロナ対応に取り組む

ワクチン接種が進み終息に向かうと期待された新型コロナウイルスは、2021 年末からの変異型「オミクロン株」の流行で再び経済活動の脅威となっています。

大幸グループでは新型コロナウイルスの感染対策が事業活動を継続する上での最大の課題として、2020 年の早期から危機感を持って取り組んできました。密を防ぐ職場環境の整備や感染の疑いがある場合の対応などの専門家のアドバイスを得ながら行った周到な準備は、当初は他社から「そこまでしなくても」と言われましたが、その後の感染拡大で業界のモデルケースとして評価されています。また、コロナ対策を契機に進めた業務の電子化は、業務の効率化や顧客サービスの向上につながるなどの成果をあげています。

ワクチンの追加接種や治療薬の開発など、新型コロナをめぐる状況は常に変化しています。当グループでは今後も気を緩めることなく全部署が一丸となってウイズコロナに対応した取り組みを進め、コロナ禍を乗り切っていきます。

環境省の「通知」発出を踏まえ ハイブリッドソイルの生産計画が動き出す

さて、昨年度の本誌「CSR 報告書」では環境省の英断で「建設汚泥処理物等の有価物該当性に関する取扱いについて（通知）」が発出され、私たちの業界が資源リサイクルの新時代を迎えたことをお話しました。そこから1 年を経て、業界全体で処理業から製造業への転換の動きが大きく進んでいます。

まず、公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団が再生品（建設汚泥再生品、コンクリート再生砕石等）の有価物該当性についての審査認証を行う第三者機関となり、各事業者は認証を申請して審査を受けて再生品を製造し、出荷していきます。審査認証にあたっては再生品が合理的かつ計画的に利用されることを前提とし、製造設備・原材料と利用先を特定します。

利用先は公共工事に限定し、公共工事の発注者（国や自治体）、受注者（建設業者）を含めたスキーム（枠組み）が構築されました。

大幸グループでは、このスキームを活用し、資源の再生と循環の事業を進めるために、業界の他社と共同でハイブリッドソイル（以下 H.B.S）の生産計画を進めています。H.B.S は当グループの堺プラントで生産する再生土（ポリアース）と、コンクリート塊などから生産される再生砕石をミキシングしてできるリサイクル資源で、国土強靱化の公共工事などへ使用されます。H.B.S の材料を生産する工場および生産に参加する事業者が共同で設立するミキシング工場もすべて再生品生産の認証を取得し、徹底した管理のもと周辺への環境負荷を低減した生産を行います。

さらに、各工場からの材料の搬入やミキシング工場からの製品の搬出は船舶を使用した海上輸送とし、運搬に掛かる二酸化炭素排出を大幅に低減します。



企業理念

私達は「地球を大切に」という合い言葉のもとに

地球環境時代にふさわしい企業をめざしています。

リサイクル技術の開発など、産業廃棄物を地球にやさしく

還す方法を常に追い求め、この大切な地球環境をすばらしい状態で

未来に残したいと心から願う人間の集まりです。

社会課題の解決に貢献する 持続可能な事業を推進していく

大都市では高度成長期に建設されたビルなどのリノベーション工事や、リニア中央新幹線など新たなインフラ整備が進められています。関西では 2025 年の大阪・関西万博（日本国際博覧会）や IR 事業など大イベントが目白押しで、それに伴う交通アクセスの整備なども進められています。そうした工事や設備の更新では大量の建設系廃棄物が発生しています。

甚大な被害をもたらした2021年7月の静岡県熱海市の土石流災害を契機に盛土などの管理や建設廃棄物の適切な処理に注目が集まり、排出者の管理責任が強化されています。H.B.S の活用は、適切な処理と管理で大量に発生する建設系廃棄物を巨大地震や大型台風に備えた河川や海岸堤防の補強、沿岸の市街地のかさ上げなどに使用し、より安全で魅力的なまちづくりに役立てる事業です。それは当グループが全力で取り組む SDGs（持続可能な開発目標）の達成に直結するものであり、事業活動が社会課題の解決に貢献する CSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）の実現につながります。

いくら社会課題の解決に貢献する事業であっても、事業として継続できなければ意味がありません。

H.B.S のリサイクル事業を成功させるためには供給を上回る需要が必要です。そのために公益社団法人 全国産業資源循環連合会の建設廃棄物部会を通して、公共工事で H.B.S を活用していただけるよう、業界全体で働きかけています。

大幸グループは業界各社と連携して資源リサイクルの新たな時代を切り拓き、地域活性化・国土強靱化・やさしくかつ魅力的な街づくりに貢献していきます。どうか一層のご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

大幸工業株式会社 代表取締役

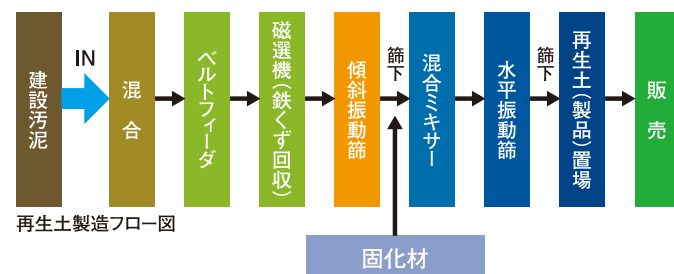
大阪ベントナイト事業協同組合 代表理事

浜野 廣美

建設汚泥再生品等の利用促進で 社会に貢献

環境負荷が軽減できる船舶輸送に備え 堺プラントの設備を改修

大幸グループの堺プラントでは、建設汚泥再生土「ポリアース」を製造しており、業界他社製造の再生砕石と混合して、リサイクル資源「ハイブリッドソイル（以下H.B.S）」を生産する計画を立てています。H.B.Sは国土強靱化の公共工事などへ使用されるため、業界で連携し有価物該当性の審査認証を受ける取り組みを進めています。堺プラントでは2020年から改修を行い、設備を整えてきました。ここで、ポリアースの特徴と、新しいプラント設備について説明いたします。



大幸工業株式会社 専務取締役 大阪ベントナイト事業協同組合 専務理事 浜野 雅浩

◆コンベアーによる連続再生処理

建設汚泥再生土は、生活環境保全上の基準を満たし、用途ごとに設計図書で規定された要求品質に適合していることが重要です。ポリアースは、原材料の受け入れピットから製品ピットまでベルトコンベアーで連結し、連続再生処理するため、発注者様に一目で製造工程を確認していただけます。



建屋内の固化再生施設



◆異物の除去を徹底した品質管理

再生処理施設では、三連の磁選機と機械式による異物除去装置に加え、目視による異物除去を実施し、徹底した品質管理に努めています。回収した鉄くず等はリサイクルされ、新たな天然資源の消費削減に貢献しています。また、地域環境および労働環境対策として、1200m³/min大型集塵機2機を備え、建屋内に局所集塵機2機を設置しています。



建屋内の局所集塵機



◆細粒分含有率と粒度分布に対応



傾斜振動篩と水平振動篩

「建設汚泥処理土利用技術基準」に土質区分基準が定められており、第二種処理土の適用用途について、細粒分含有率注意と粒度分布注意が記されています。このため、再生処理施設では、傾斜振動篩と水平振動篩の2種類を設置し、細粒分含有率と粒度分布に対応しています。

◆海上輸送により二酸化炭素を削減

ポリアースの輸送は、製品ピットからシップローダー（高速ベルトコンベアー）を用い、専用岸壁で船積みします。800tクラスの船舶であれば約3時間で積載することができ、最大1,600t/日の海上輸送に対応します。海上輸送は、陸上運搬に比較して二酸化炭素の排出量を25%低減します。海上輸送されたポリアースは、造成地の盛土等、公共工事において適切に用いられています。



専用岸壁

安全かつ確実に業務を行い、環境にやさしい職場づくりを遂行

コロナ後の新時代に向け、これまで以上にお客様に寄り添い、課題を共有し、その解決に向けて貢献させていただけるよう、リサイクル製品の製造、適正処理に努め、安全・着実に業務を進めたいと考えています。また、プラントでの集塵・騒音対策や清掃、二酸化炭素の排出量削減に注力し、人や環境にやさしい職場づくりを遂行してまいります。

そのために、顧客の皆様をはじめ、従業員や協力会社のスタッフ、地域の方々とのコミュニケーションを心がけ、ステークホルダーの皆さまの良きパートナーとしてご期待にお応えすべく真摯に取り組む所存です。今後とも、ご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和3年度 近畿建設リサイクル表彰で【大賞】を受賞

大幸工業株式会社、大阪ベントナイト事業協同組合は、建設副産物対策 近畿地方連絡協議会から、「コンクリート塊と建設汚泥、建設副産物の再生活用への取り組み」を評価して頂き、令和3年度近畿建設リサイクル表彰 再資源化部門【大賞】を受賞いたしました。

「令和3年度近畿建設リサイクル表彰」受賞者一覧▶



令和3年度近畿建設リサイクル表彰状



事業活動を継続し、SDGs活動を推進

コロナ禍を改革の機会と捉え、
課題の克服に取り組みます

大幸グループでは、新型コロナウイルスの感染対策が、事業活動を継続する上での最大の課題と考え、早急な対応に取り組んでまいりました。ステークホルダーの皆さまのご協力を得て、2021年末まで当グループ内で発症は見られませんでした。オミクロン株の爆発的な感染拡大が起きた2022年1月、運輸部の従業員3名に陽性反応が現れました。そして、運輸部事務方6人のうち半数が自宅療養する事態となりました。

緊急対策として、営業部に応援を要請し、東常務以下4人が運輸部事務所へ駆けつけてくれました。残る3人の事務方は、濃厚接触者に該当せず陰性でしたが、念のため別室へと移動。応援隊との接触を避け、ガラスの壁越しに無線で連絡しながら業務を続けました。一方、本社などの従業員にも状況を伝え、「運輸部への電話は回数を減らし、内容をまとめるよう」指示しました。従業員の連携・支援により、約10日後に事態は収束。その後も少数のドライバーが罹患しましたが、配車業務は終始に渡って滞ることがありませんでした。

運輸部を応援してくれた東常務・奥野室長・植田係長・溝渕係長、状況が逼迫する中でくじけず配車部署を守った土井主任・若野さん、自宅待機中にリモート業務で支えてくれたスタッフ、状況を理解し協力してくれた他部署の従業員、すべての協力があったからこそ乗り切ることができたと、深く感謝しています。

当グループでは、かねてから部署内での業務シェアを進め、休業者の「代理がきく」体制づくりを進めていましたが、今回の経験により、部署の垣根を越えた相互理解・支援の枠組みが必要だと気づきました。一人ひとりが広い視野を持ち、共に業務改善を進めることが大切です。コロナ禍の学びを活かし、課題克服に向けた改革および、配車システムの電子化を推進してまいります。



大幸工業株式会社 取締役管理本部長
大阪ベントナイト事業協同組合 監事

浜野 真季

SDGs達成に向けて貢献し、地域の良きパートナーに



司会を務める地域寄せ植え教室

当グループでは、事業活動が社会課題の解決に貢献するCSV(共有価値の創造)の実現をめざしており、早期から自然な流れとして、SDGs(持続可能な開発目標)達成に取り組んでまいりました。従業員と地域の皆さまの生命を守る「津波避難ビル兼 車輛センター」では、万全なコロナ対策を講じた上で、今年度も防災訓練を実施。また、地域の皆さまのご要望を受け、「さざんか平林協議会」と協働で感染予防・事前準備を整え、寄せ植え教室を実施することができました。今後も地域の皆さまと心をひとつにして歩んでまいります。引き続き、ご支援・ご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



コロナ禍による、運輸部への緊急応援を振り返る〈営業部〉



常務取締役 東 浩之

2022年1月、運輸部3人がコロナ陽性となり、営業部4人で応援に出向きました。経歴約30年の奥野室長は配車の流れを理解しています。また、溝渕係長は2年ほど運行管理の経験を持ち、現在は流動化処理土の出荷に従事。そして、植田係長は建設系の現場をほぼ把握しています。それぞれ業務フローを理解しているので、先々を考えて行動してくれました。土井主任以下、運輸部のスタッフは本当によく頑張り、何とか乗り切ることができました。このように、他部署の人間が業務を経験し、良い点、改善ポイントなど、客観的な意見を述べることも大切だと感じました。

配車業務の勘を取り戻すまで少し時間が掛かりましたが、何とか遅延なく乗り切ることができ、ほっとしています。緊急事態で困っているとき必要となるのは、やはり「助け合いの心」です。業務内容によって、それぞれ出来ること、出来ないことはありますが、応援に行くと部署間の理解が深まり、よりよい人間関係をめざすことができると感じました。



係長 溝渕 広幸



室長 奥野 健治

応援に行って、まず、人の手が触れる場所をすべて消毒。我々が事務所に入り、土井主任と若野さんが社長室へ移動して事務作業を進めました。混み合う午前中の配車業務を終えると営業回りに出て、夕方に運輸部へ戻る。そんな日々が1週間余り続きました。今回の経験で、逆の立場になれば営業部はどうなるだろう、という疑問や課題も浮かんできました。



係長 植田 伸太郎

配車業務の流れは分かっているつもりでしたが、車と運転手の細かい割り振り方法や、事務手続きについては、まだまだ把握できていませんでした。コロナ後もインフルエンザ等で、同部署のスタッフが何人か自宅療養となる可能性もあります。個人的には、コロナ禍の収束後、新配車システムの事務手続きを学んでみてはどうかと思っています。



営業部の応援を受けて〈運輸部 運行管理課〉

受注の多い時期だったので、電話・FAX・メール、営業担当からも次々オーダーが入ってきます。業務が倍増し、ミスを防ぐため何度も繰り返し、運行管理表を確認しました。目を閉じても管理表が浮かんでくるような状態でしたが、応援隊との連携が見事に取れ、遅延なく業務をこなすことができました。「配車を止めてはいけない」という全員の思いが噛み合い、互いに信頼して業務を進めたおかげだと思います。ひとえに感謝あるのみです。



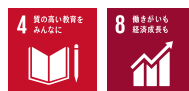
主任 土井 良介

部署内3人目の陽性が判明し、夜も眠れないほど不安になったのですが、適切な指示と営業部の応援を受けることができ、本当に感謝しています。私たちは社長室へ移り、感染予防のため真冬でしたが窓を開けたまま作業しましたが質問しやすく、業務がスピーディに進んだことも印象に残ります。自宅待機中の後輩も、電話とパソコンで仕事を助けてくれ、精神的に随分と支えられました。



若野 君江

多様な従業員が一体となり、 コロナ後の未来を拓く

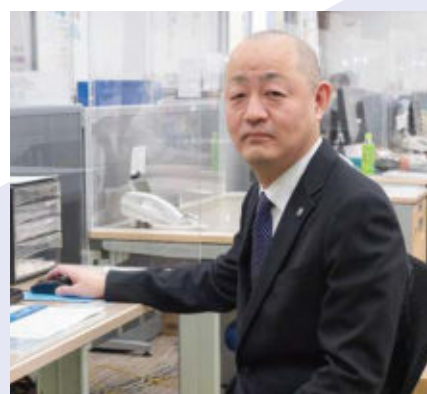


多様な従業員が互いに個性を認め合い、各自の能力を活かして働く職場をめざし、ダイバーシティ(多様性)&インクルージョン(一体性)を推進しています。一人ひとりが社会貢献の意識を携え、当グループが一体となって、ウイズコロナ、アフターコロナの時代を拓いていきます。

やりがいのある職場づくりをめざして

業務推進部兼購買部 部長 重信 忠司

経理全般を監督し、銀行対応などに取り組んでいます。本社、運輸部ほか、グループの従業員すべてが、やりがいを持って働き、潤いのある暮らしを楽しんでもらえるよう、経理の立場から努力したいと考えています。営業部など他部署と連携し、入社して良かったと思える職場づくりをめざして歩んでまいります。
[1993年入社] 勤務28年



定年後も技術を活かし、後進を育成

南港処理センター 定年後嘱託従業員 小西 健一

会社からオファーを受け、再雇用制度を利用して勤務しています。主に、ろ過装置の操作を行い、必要に応じてバックホーの操作なども手掛けています。環境にとって大切な仕事であり、技術力にも自信があるので、後輩らに継承していきたいと思っています。今後も達成感を感じながら、働き続けたいですね。
[2006年入社] 勤務15年



互いを思いやる配慮とマナーを大切に

泉プラント 事務員 重信 千恵

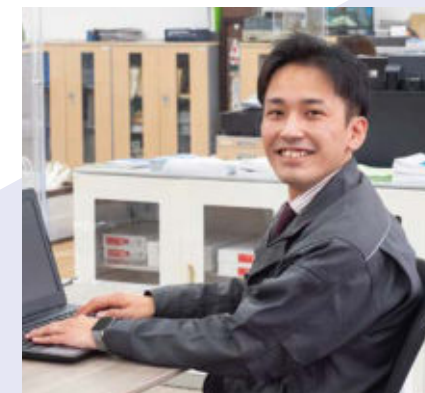
プラントに搬入・搬出する車両の受付と、伝票の入力などを担当しています。以前、本社勤務だったので、伝票処理の流れや連携を考えながら業務に臨んでいます。いつもドライバーさんが礼儀正しく接してくださるから、こちらも相手への配慮を大事にしています。そんな、良い循環を広げていきたいですね。
[2010年入社] 勤務11年



リサイクル品の提供でSDGsにも貢献

営業部 建設 田中 良介

建設系の営業を担当し2年目に入りました。お引き取りした建設汚泥を、顧客ニーズに応じた流動化処理土に再生し、ご利用いただく。そんな、やりがいある仕事です。入社当初は専門知識を習得するのに苦労しましたが、徐々に手応えを感じています。福利厚生が充実し、出産祝い金もいただいております。
[2020年入社] 勤務1年



男女ともイキイキと輝ける職場です

総務部 事務員 竹中 久美子

営業マンをサポートする営業事務を担当し、伝票の処理から顧客への請求書発送まで行っています。コロナ禍に入ってから入社で、交互出勤などに戸惑うこともありましたが、話しやすい先輩方のおかげで仕事の流れが分かるようになりました。男性・女性ともに、責任を持ってイキイキと働ける職場です。
[2020年入社] 勤務1年



顧客、地域にも安心・安全な運転に努めます

運輸部 ドライバー 稲 翔平

まだ1年目なので、初めての現場へ向かうことも多く、緊張感、わくわく感も覚えながら車を走らせています。出発前、先輩に注意事項を聞くようにしていますが、皆さん冗談も交えながら、丁寧に教えてくださいます。車体に印刷された会社名に恥じないよう、安全運転で頑張ります。
[2021年入社] 勤務半年



意欲を引き出してくれる上司に感謝

運輸部 ドライバー 勝山 広史

ブローア車を運転し、廃棄物の引き取り作業と運搬・搬入、再生品の搬出・運搬を行っています。経験豊富な上司の方々に可愛がってもらっているので、彼らに付いていけるよう頑張ろうとモチベーションが高まります。環境に役立つ仕事をしていると実感することができ、それも意欲向上につながります。
[2018年入社] 勤務3年



個々の技術を伸ばし、能力を活かす

運転のオールラウンダーで構成する 「イノベーショングループ」

ドライバーの高齢化、人手不足が業界共通の課題となっています。一人ひとりの乗務員が最大限の能力を発揮して社会貢献することをめざし、車種を横断してオールマイティに運転できる「イノベーショングループ」を、2019年に立ち上げました。イノベーションとは「革新」などを意味し、新しい価値の創造を目標としてメンバーらが名付けました。



「イノベーショングループ」ロゴマーク

イノベーションとは、新機軸、技術革新、新技術などを意味し、新しい価値の創造をめざしてメンバーらにより命名。



さらに高みをめざして

初代リーダー 土井 良介

イノベーショングループ発足時にリーダーを引き受け、メンバーの指導・育成に当たりました。私自身、各車種(トレーラー、ローリー、プロアー、ベッセル)の運転を経験しています。車種の枠にとらわれず挑戦してみるとマスターできることを知っていたし、やる気あふれるメンバーだったから、全力で指導に取り組むことができました。会社の軸ともなる存在なので、さらに高みをめざし頑張りたいです。



イノベーショングループを支える7名

習得した技能は財産になる

幅広い運転スキルを身に付けられ、自分のためになるし、会社の業務効率化にもつながります。覚えることは多くあり、簡単ではありませんが、習得した技術は財産になります。メンバーは仲良く雰囲気もいいので、参加をめざしてほしいですね。



大倉 隆伸

多くのスキルを得て成長

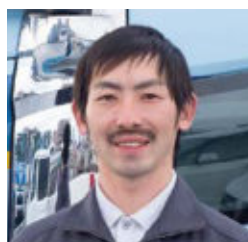
好奇心が強いタイプなので、いろんな運転技術を習得していきたいと思っています。乗車できる車種が増えれば、空いた時間もシフトに入れ、可能性が広がる気がします。メンバー同士で切磋琢磨して技術的に成長していきたいし、よい刺激ももらえます。



高橋 省一

プレッシャーあるが楽しい

普段はプロアーに乗っていますが、このグループに入り、他の車種も運転できるようになりました。トレーラーの動きはプロアーとは全く違い、新鮮味があります。プレッシャーもあるけれど楽しいので、全車種を乗りこなす先輩に付いて頑張りたいです。



上野 亮太



ウィズコロナ時代、 感染拡大防止に尽力し、 事業への影響を抑え社会的責任を果たす

2年以上続くコロナ禍のもと、従業員と家族、地域の皆さまの安全・健康を最優先とし、感染拡大防止に努めることで、事業を継続し社会的責任を果たす取り組みを続けてきました。職場での身体的距離の確保、朝夕の体温チェック、オンライン会議・研修といった「新しい生活様式」への対応、陽性者や濃厚接書者に対する休業補償、抗原検査キットによる検査の実施など、対策は多方面にわたります。今後も社会状況に応じた感染対策に取り組みます。



パーティションを設けたオフィス



本社受付に設けた非接触式検温器と、手指消毒用スプレー



ウイルス除去機と消毒用アルコール



コロナ対策用掲示物の設置



出勤・退社時、
全社に行う
体温チェックと
その記録表

2020年より継続的に実施

- ✓ 体温測定(37度超は帰宅要請)
- ✓ 手洗い、消毒、マスク着用、換気
- ✓ 仕切り板による身体距離の確保
- ✓ 2チーム交互シフト導入
(緊急事態宣言下などの出勤制限)
- ✓ 在宅勤務中のパソコン貸与
- ✓ 自宅待機者の休業補償
- ✓ 各自で昼食時間をずらし、黙食を推奨
- ✓ 喫煙所の人数制限(1名まで)
- ✓ オンライン会議・研修の導入

大学・地域等でのESD教育・環境学習など

大幸グループでは、CSR報告書をESD(持続可能な開発のための教育)教材として大学の授業や社員研修で役立てていただく「CSR講座」や、幼児・生徒などが土と泥を体感する多様な「泥だんご教室」、大学の授業での「泥学講座」の開催など、ESD・環境学習を柱とする社会貢献活動を続けてきました。新型コロナウイルス感染拡大により、状況に応じてオンライン・対面の両方で活動を展開しています。

長崎大学「CSR講座」において 女性活躍状況の「見える化」に貢献

コロナ禍が広がる直前、2020年1月の長崎大学「CSR講座」は、3年生30名を対象に開かれました。開催に当たって、大阪から長崎まで5歳の息子を伴い、当グループ役員がボランティアで講座をサポート。受講した学生らにとって、ダイバーシティ(Diversity)経営の実践を可視化する授業となりました。



粘土の体感科学や土・泥学講座などの出前学習を支援

泥や粘土は、砂漠化防止、噴火灰・PM2.5、地震津波、土石流、湿原保護、棚田保護、沈下防止、古墳・遺跡保護など地盤環境から自然災害など様々な課題と密接に関わっています。自然な素材に触れ、感触を楽しむ、可塑性のある泥あそびや泥だんごなどの体験は、知的好奇心や探究心の向上につながり土・泥を礼讃(らいさん)し、「地球を大切に作る心」を養います。大幸グループでは、粘土の体感科学や土・泥学講座などの出前学習を支援しています。

◆多様な泥あそび、泥だんご教室を開催

土・泥や粘土は、水分量で粉土(power)、泥水(muddy water)、柔らかい泥土(soft mud)、硬い泥土(stiff mud)、粘土(clay)、乾燥粘土(dry clay)、泥岩(mudstone)、土(soil)の状態に変化し、可塑性のある「泥あそび」や「泥だんご」などの体験は、知的好奇心や探究心の向上に繋がるダイナミックな遊びや冒険に展開します。



社会貢献活動をオンライン・対面で開催



◆産学・地盤環境工学系の専門家が考案した中空泥だんご(特開2021-029623)

従来の泥だんごは、表面に色粉粘土で着色します。そのため小さい泥だんごになり粘土のネバネバを十分に手の平で体感観察できません。大学教授や工学博士など、産学・地盤環境工学系の専門家が考案した中空泥だんごは、「風船型枠で丸く軽く大きな泥だんご」で、手の平で粘りが体感観察できます。

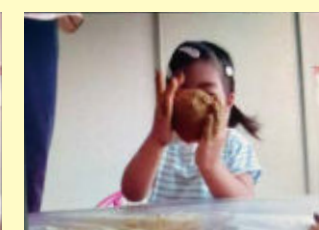
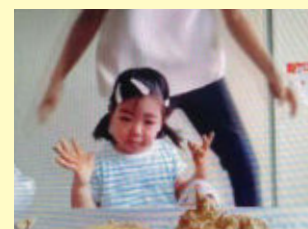
陶芸用の生粘土200gと直径4cm程度に膨らませた丸い風船を用意します。厚さ5mm程度になるように粘土を平らに伸ばし、風船を型枠にして粘土で包みます。ネットで拘束させながら紐で吊るして乾燥させます。粘土が乾燥収縮してひび割れる前に風船は爪楊枝などで割ります。表面が生乾きの泥だんごは、ガラス瓶などで抑えつけるようにして磨くと光る泥だんごになります。着色していないため、水で濡らせば何度でも光る泥だんごの体験ができます。未体験のお友達に磨いた光る泥だんごをプレゼントしたり、お友達に「磨けば泥だんごが光る体験」をプレゼントできます。



直径と重さで難易度を競うことが可能です。

【難易度3】乾燥前直径6cm,乾燥前重さ200g、【難易度4】直径8cm,400g、【難易度5】直径12cm,1kg

おうちでお母さんと一緒に、三歳児からできるオンライン泥だんご教室



オンライン泥だんご教室では、土や泥の感触を肌で感じ、日常を離れて自然に触れ合う時間を、気軽に家庭で楽しむことができます。写真は鹿児島市に住む三歳児一人のために開催した非常に贅沢なオンライン泥だんご教室です。手についたネバネバの泥の感触が、手の温かみで泥が乾燥し、ベタベタに変化します。「泣きべそ」顔が得意げな顔に変わっていきます。

右記QRコードまたは
下記URLから動画を
ご覧いただけます



機能強化を進めるBCP中核施設 「津波避難ビル兼車輛センター」



新型コロナウイルス感染症の流行は、事業継続による社会貢献の重要性を再認識させました。大幸グループでは、大規模な自然災害を想定しBCP(事業継続計画)拠点「津波避難ビル兼車輛センター(以下、「避難ビル」)」を2019年に建設。従業員と共に地域の皆さまの生命を守る「津波避難ビル」(指定緊急避難場所)として、同年、自治体・地域と協定を締結しました。2021年度も、コロナ対策を施したうえで、KTK防災対策実行委員会「第4回防災訓練」が実施されました。



津波避難ビル兼車輛センター

◆ 大容量の自家発電機を「避難ビル」屋上に設置

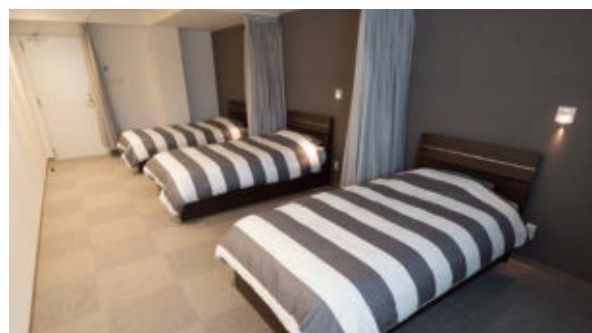
南海トラフ巨大地震の津波や、豪雨による大和川の氾濫、堤防内の内水氾濫予想される大阪市住之江区。浸水などによる停電に備え、2021年度、立体駐車場の最上階に自家発電機を設置しました。最上階は南海トラフの津波想定を十分に上回る高さで、発電機は立体駐車場と事務所棟の必要電力をまかなえる大容量出力タイプです。また、その他の停電対策として、立体駐車場の大型車両に機器をつなぎ、電源を確保することも可能です。



立体駐車場最上階に設置された大容量の自家発電機



事務所棟内にあるカフェタイプの休憩室



適切な体調管理のためのドライバー仮眠室

KTK防災対策実行委員会「第4回防災訓練」開催



建築基準法と各自治体の
設定基準を満たした建物に
与えられる津波避難ビル表示



車イス避難にもやさしい車両用スロープ
(コロナ禍以前、地域参加で開かれた防災訓練より)

大阪ベントナイト協同組合
環境対策協議会(KTK)に設
置した「KTK防災対策実行委
員会」(委員長=大阪大学教授
乾 徹氏)は、2021年11月16
日、第4回防災訓練を開催し
ました。昨年同様、コロナ対策
を講じたうえで参加者を少人数に絞り、南海トラフ地震
発生を想定して訓練をスタート。2021年度は、配車係
のリーダー不在時に備え、部下がリーダー代役を務め
て、「避難ビル」1階の大型車両を2階へと移動しました。「この建物は、緊急時に地域の皆さん400人を受け
入れる避難ビルとなる」という意識を参加者が共有し、
有効な訓練を心掛けました。



KTK 防災対策実行委員会
委員長 乾 徹氏

訓練終了後、参加者全員が意見を交換し、「車両移
動などの時間は昨年より短縮できた」「休日・夜間の被
災に備え、避難する人々の誘導・安全確保をさらに徹
底したい」と訓練を精査し、リーダー代役などが新たな
視点でコメントを述べました。この日の検討事項は文
書に記録し、緊急マニュアルの充実、対策強化に役立
てます。

■ 非常食・飲料水、非常用トイレ等を備蓄



自治体支給の備蓄物
資に加え、大幸グループ
独自に非常食や飲料水
を確保し、浸水が長引
いた場合に備えています。



KTK防災対策実行委員会 委員長 乾 徹氏を中心に訓練を実施



駐車位置を誘導



車両移動の号令



訓練後の反省会で具体的に課題を検討

地域の皆さまと一体になり、 環境を考え、寄与する活動を展開



リサイクル品の製造による資源循環システムの構築、環境負荷の少ない廃棄物処理により、持続可能な社会づくりをめざす大幸グループ。その事業は地域の理解や信頼を基盤とするもので、長年にわたり地域清掃、環境学習など地道な地域貢献活動に努めてきました。コロナ禍の2021年度も感染防止対策を施し、可能な範囲で活動を実施。コロナ後を見据え、ステークホルダーの皆さまと共に、環境に貢献する活動を推し進めていきます。

開催10年目、コロナ禍のもと 地域との連携で実現した「寄せ植え教室」

大幸グループでは2011年から継続的に、エコリサイクル土を使用した寄せ植え教室を開催しており、2021年度に10年の節目を迎えました。コロナ禍がピークと収束の波を繰り返すなか、開催中止も危惧されましたが、地域の要望を受けて、さざんか平林協議会と協働でコロナ対策・準備を進め、11月19日、住之江区の平林福祉会館にて実施することができました。

開催に当たり、当グループ幹部・浜野真季が「地域の皆さまの前向きなご対応、ご協力があったからこそ実現した教室です。厚くお礼申し上げます」と挨拶しました。当グループは、砂漠の緑化対策「九州大学・玄海町葉草共同研究プロジェクト」に協賛しており、続いて、同プロジェクトの研究内容を共に学習。また参加者へ、同町産ドクダミ茶とわらび餅がふるまわれました。その後、恒例の寄せ植え教室が開かれ、それぞれ彩りよい寄せ植えを完成させました。



コロナ禍のもと、座席の距離を確保し対策を講じて開催



贈呈品を代表して受け取る、さざんか平林協議会の佐野悦子副会長（写真右）



参加者にふるまわれた、玄海町産ドクダミ茶とわらび餅



当グループ幹部・浜野真季が、地域の皆さまに謝辞を述べる



安全・快適で美しい街づくり KTK道路清掃美化キャンペーン

大幸グループが中心となって取り組んでいるKTK道路清掃美化キャンペーン（環境対策協議会主催）は、安全で持続可能なまちづくりに貢献すると共に、子どもたちを

含む地域全体の生涯学習の場となっています。2004年（平成16年）にスタートし、年々参加者が増加。大幸工業（株）とKTK会員企業50社の社員・家族に加え、地元町会の方々100人以上、自治体各部署、その他賛同者の計400人超が集まる大規模な地域イベントに成長しました。1回あたりのゴミの収集量は、2tトラック10台分にのびります。



第1回：2004年7月25日 参加者100名

■参加人数の変遷

第1回	2004年	100名
第3回	2006年	160名
第5回	2008年	264名
第7回	2010年	270名
第9回	2012年	410名
第11回	2014年	365名
第13回	2016年	433名
第15回	2018年	423名



第15回：2018年10月14日 参加者423名 ※2020年・2021年はコロナ禍により、開催を自粛しました。

ハイブリッドソイル(H.B.S) 事業推進のため、大阪大学インターシップ 実習生の受け入れを協働で実施

大幸グループでは、ハイブリッドソイル(H.B.S)事業の計画を進めています。H.B.S事業は当グループの堺プラントで生産する再生土(ポリアース)と、コンクリート塊などから生産される再生砕石をミキシングしてできるリサイクル資源で、国土強靱化の公共工事などに使用されます。H.B.S事業推進のため、一般財団法人 地域地盤環境研究所との協働により、大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻博士前期課程(指導教官 教授 乾 徹氏)のインターシップ実習生を受け入れています。

●従事内容:「建設汚泥処理土とコンクリート再生砕石から製造するリサイクル材料の土質力学的特性評価に関する実験業務」



職場体験学習

地域の中学生在が、持続可能な経済活動を促進する知識および技能、質の高い技術教育・職業教育について学び、将来の社会的自立を促すため、2014年より大阪市立新北島中学校の職場体験学習を受け入れています。参加した中学生は、車輛センターで保有するベッセル車とダンプ車について学び、水密性の高いベッセル車は、運転の振動で廃棄物の水分が分離してもこぼれないことを確認。また、大型車の死角を学び安全につなげる試乗体験、事務体験などを行い、2日間の日程を終えます。



住之江区子ども会育成連合 協議会 体育事業後援

地域の子どもの健全なライフスタイル育成、平等で平和な文化の推進を目指し、住之江区子ども会育成連合協議会体育事業に賛同、後援を行っています。同事業は各種目で活発に活動が続けられており、大幸グループもソフトボール大会、キックベースボール大会の開会式などに出席し、子どもたちの健康増進と成長を応援しています。



学生と幼児の食育活動に向けた 改良土寄付に感謝状

相愛大学人間発達学部へ、2017年に改良土の寄付を行いました。改良土は再利用を目指して製造されており、教師を目指す学生と地元の子どものために、野菜を栽培する畑の用土として、現在も使用されています。このプログラムは、学生と子どもが共に土に触れ、野菜を育て、収穫して食べる、という一連の流れの中で、食育について学ぶもの。プログラムへの理解と改良土寄付に対し、2018年3月、学校法人相愛学園より感謝状を受領しました。



多様な人材が意欲と向上心を携え 安心・安全に働ける職場環境をめざす

大幸グループでは、環境・社会への貢献につながる事業継続と持続的成長をめざすと共に、従業員が自ら考え意欲的に行動できる職場づくり、余暇を楽しみ生産性向上を目指す働き方改革に取り組んでいます。

従業員の誰もがモチベーションを高め、能力を伸ばせるよう公正公平な評価・表彰制度を設置。また、多様な人材が安心・安全に働ける環境づくりをめざした定年後の継続雇用制度、育児・介護休暇制度など、福利厚生充実を図っています。さらに、対面・オンラインによる従業員研修や講習会、定期刊行物の発行を通じて、情報共有と組織力強化に取り組んでいます。

グループ内表彰

大幸グループでは、長く職場の戦力として実績を積みだ従業員に対し「永年勤続表彰(10年・20年・30年)」を行っています。また、定年退職者に、親睦会より感謝の気持ちを込めて記念品を贈呈しています。

さらに、働きがいのある職場づくりに向けて「優良ドラ

イバー表彰」制度を設けており、2017(平成29)年から「優良従業員表彰」、また2018(平成30)年から、洗車に特別努力した乗務員への「車両ぴかぴか賞」表彰を実施しています。



10年勤続 表彰

●南 孝佳
〈欠席〉
●重信 千恵



20年勤続 表彰

●谷藤 善治
〈欠席〉
●渡部 旭
●鳥居 正和



30年勤続 表彰

左から
●只安 実
●柿島 勇夫
●東 浩之
〈欠席〉●隅田 照美 ●恒吉 猛史 ●森 成男
●櫻木 道雄 ●桑本 進次



車両 ぴかぴか 賞

左から
●大手山 勇太
●大西 訓志
〈欠席〉
●新宅 正治
●大手山 徳洋



優良 従業員 表彰

左から
●中村 実邦子
●若野 君江
〈欠席〉
●山田 修一

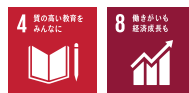


優良 乗務員 表彰

左から
●濱口 秀司
●高橋 省一
〈欠席〉
●高元 潤

■定年後の継続雇用・嘱託就業

年金支給開始年齢の引き上げ、社会的な労働力不足を鑑みて高齢従業員の戦力化を図るため、定年後の単年契約による再雇用に加え、65歳以降の継続雇用延長を実施しています。定年後の人材は、技術と知識を伝承し、事業を支える大きな力であり、社員それぞれの希望を考慮しながら再契約を更新。各自の経験や能力・役割に応じた活躍を期待して、後進へ技能・知識・マンパワーを引き継ぐ環境づくりに努めています。



..... 継続雇用制度を利用し各部署で活躍

◆社会貢献、後輩育成を継続する



運輸部 ドライバー 新宅 正治

定年後嘱託社員として働き、1年余りになります。当社の車種グループすべてを経験し、現在はフルトレーラーを運転。後輩育成のため、同乗指導なども行っています。今の新入社員は若くて勤めが良く、教えがいがありますね。社会貢献の実感もあるし、求められる限り、まだまだ仕事を続けるつもりです。

◆品質への信頼に誇りを持って



営業部 奥野 健治

会社から、部下への指導・引き継ぎを依頼され、昨年より嘱託社員として勤務しています。業務内容は、建設汚泥の受注営業と、その再生品である流動化処理土の販売営業です。流動化処理土の販売当初から携わってきましたが、顧客ニーズへの対応力と、品質の高さが信頼を集めており、誇りに感じています。

◆運搬・処理の経験を役立てたい



南港処理センター 恒吉 猛史

ローリー、トレーラー、ダンプ、バックホーの運転を経験したあと、南港処理センターへ。廃酸、廃アルカリを中和した泥状のものを圧搾する、プレス機の操作を担当しています。土に返すための作業ですね。昨年から嘱託勤務になりましたが、運搬や処理の流れが分かっているので、経験を活かして働きたいと思っています。

■育児・介護休暇

女性の活躍推進、雇用継続に向け、仕事と家庭生活の両立を支援する育児・介護休暇制度を設置し、従業員が安心して就業できる環境づくりを図っています。職場の理解・支援によって制度を利用しやすい環境づくりを推進し、新生児の育児、高齢者の介護、病床にある家族の看護等、個別にヒアリングを実施。正当な理由に基づき、所定時間外労働の免除、深夜業の制限、時間短縮その他の支援を行っています。

◆おかげさまで健やかに大きく成長



運輸部 事務員 堤 里栄

第一子出産と保育所準備などのため、休暇を1年余りいただきました。コロナ禍のもと育児コミュニティで情報交換ができず何かと大変でしたが、会社に休暇の延長もお願いし、おかげさまで元気に育っています。出産前後や、乳児の表情が豊かになる半年後など、夫が休暇を取れたら妻も嬉しいと思います。

◆コロナ禍で故郷に帰れず休暇に感謝



運輸部 ドライバー 森本 竜生

夫婦とも地方出身なのですがコロナ禍で里帰りできず、親元に頼ることができませんでした。第四子を帝王切開で出産するため、2週間近く休暇をいただき、長男ら3人の面倒をみることができました。先輩ドライバーが何人が育児休暇を取られていたので制度を知っており、早めに申し出て利用しました。

■従業員研修

大幸グループでは、入社後3カ月間、全部署の業務を学ぶ新入社員研修、管理職による大幸未来育成会をはじめとしたセクションごとの研修、各プラントを統括する視点を育み相互活性化を図るプラント人材交換制度等、これまでに取り組んできた様々な活動を通し、各分野の人材育成に尽力しています。また、公正採用選考人権啓発推進員の新任・基礎研修への参加等により公正公平な職場環境を促進。事故や課題の共有化によって、より安全な勤務体制と、風通しのよい環境づくり、一人ひとりの資質向上・成長を目指しています。



■資格・免許取得サポート

車輛センターで安全・確実な輸送を管理する運行管理者や、プラントにおける重機オペレーターの各種資格・免許の取得を支援するため、研修への参加費や、資格試験・免許取得に関する費用負担を実施しています。資格・免許の取得は、業務的な必要性ばかりでなく、個人の技能力を伸ばし、成長を促すため、大幸グループを挙げて推奨しています。

■健康診断と人間ドック

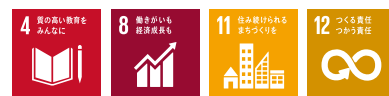
若年から壮年、熟年に至るすべての従業員の健康と福利厚生を推進するため、大幸グループでは健康診断(特定健診・特定保健指導)に加え、人間ドックの利用促進にも力を注いでいます。これらは、疾病・潜在疾患の早期発見、予防、適切な治療への導線となるものです。人間ドックは、従業員の高額負担抑制に向け大部分を補助し、気軽に利用できる体制を整えています。

また、働き方改革の一環として、有給休暇の取得しやすい環境づくりを促進し、有意義な休暇と休息による心身の健康増進と、生産効率の向上を目指しています。

■大幸グループ通信

大幸グループ全体の情報共有を目的とした情報誌を、隔月サイクルで刊行しています。掲載内容は、私たちの関わる環境事業の現況と今後の方向性、地域の情報、行政の指導や指針の紹介、関連企業の最新情報など。すべてのスタッフと、その家族に向けて、環境事業内容と目指すベクトルについて広報を行い、グループ・関連企業の一体化と環境意識の啓発に努めています。

共通の課題や情報を共有し、 持続可能な開発をめざす



1994年、大阪ベントナイト事業協同組合と、同組合の施設利用企業や、つながりの強い企業などが、大同団結と資質向上をめざして「大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会 (KTK)」を設立しました。同組合が属する大幸グループも、賛同組織の一員として、発足当初から参加。現在、会員として109社 (2021年12月現在) が参加しており、多様な力を集約して環境問題や廃棄物処理業界の課題を共有し、会員の技術・知識、モチベーションの向上に取り組んでいます。2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべてのイベントを中止しましたが、2022年度は、十分な感染対策を取りながら、4月の総会より開催していく予定です。

活動内容



2018年

- 新年研修会・互礼会
 - ・「桂 米朝」門下 桂 勢朝 氏
- 総会・講演会
- 夏期 研修会
 - ・三方よし経営の今と土壌汚染対策 (株) FINEV 光成 美紀 氏
- 施設見学会:
 - ・(株) 津軽バイオマスエナジー「バイオマス発電事業、発電システムによる栽培施設」(青森県)
- ゴルフコンペ等の懇親会
- 社会的活動等に寄与した会員企業及び社員の表彰
- 地域貢献・コミュニケーション活動 (KTK道路清掃美化キャンペーン等)
- 優良産廃処理業者の認定取得・許可申請支援
- ISO14001認証

2019年

- 新年研修会・互礼会
 - ・奈良県明日香村 村長 森川 裕一 氏 講演
 - ・テーマ 「明日香村の未来戦略」
- 総会・講演会
 - ・大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科 花嶋 温子 氏講演テーマ「SDGsで生き残る」
- 夏期研修会
 - ・佐川事務所 社労士・行政書士 佐川 良明 氏 講演

- 施設見学会
 - ・(株) 富山環境整備 (富山県)
- ゴルフコンペ等の懇親会
- 社会的活動等に寄与した会員企業および社員の表彰
- 地域貢献・コミュニケーション活動 (KTK道路清掃美化キャンペーン等)
- 優良産廃処理業者の認定取得・許可申請支援
- ISO14001認証

活動内容【環境対策協議会 青年部】



2018年

- 総会
- 研修会
 - ・今から出来る事業継承と落とし穴 岩本司法書士事務所 岩本 健照 氏による講演
- 施設見学会
 - ・街クリーン株式会社 (沖縄県)

- ボウリング大会、ゴルフコンペ、釣り大会等の懇親会

2019年

- 総会
- 研修会
 - ・事故安全教育の各社取り組みについて発表し、情報共有
- 施設見学会
 - ・アクアパーク松阪「下水道処理施設」(三重県)

責任意識を重視したリスク管理、 グループ目標と社会倫理の理解・実践



安全衛生、危機管理、セキュリティといった各分野において積極的にコンプライアンスに取り組み、従業員への啓蒙・教育と周知徹底に努めています。また、従業員の一人ひとりが大幸グループの目指す持続可能な方向性を理解し、守るべきルールを順守して、有効・効率的かつ適正に行動するよう指導しています。

労働安全衛生への取り組み

大幸グループの安全衛生への取り組みは、朝礼および報告・連絡・相談・確認の徹底、そして的確なマニュアルを基にした柔軟な現場対応、特に責任意識の徹底に重点を置いています。マニュアルがたとえ完成されたものであっても、それにすべてを依存するのではなく、臨機応変に対応する、体で判断するというのが危機管理には必要不可欠な要素であるからです。特に当グループの場合、プラント、各部署によって業務の事情や状況が異なり、各プラントだけでも取り扱う物や処理業などにより対応すべき課題は違います。

具体的には、各プラントの処理業務に応じたそれぞれに求められる的確で即時的な危機管理体制を目指し、作業着・靴・手袋・マスク等の着用といった基本的な作業姿勢、熱中症対策として水分・塩分補給の徹底、状況に応じた管理体制を、それぞれが目的意識を持って取り組んでいます。



リスクアセスメントの実施

業務には絶えずさまざまな危険因子が潜んでいます。その危険度に応じた評価を判定し、危険因子への対応策に優先順位をつけて意識的に確認しています。例えば、日々の朝礼時にKY (危険予知) ミーティングを実施しており、その日の作業内容から危険要因を指摘し合い、危険を回避するための対策を決めてから作業に取り組んでいます。

営業活動の段階でも、危険を伴う処理の契約時には有害・危険物質の存在と状況の説明、受け入れ場所やドライバー等の条件に基づいた処理要領、危険度に応じた対応を確認しています。

また、事故発生時の各責任者の対応マニュアルについては、熟練の現場担当者が主体となって作成することになっています。

健全な経営を目指すコンプライアンスと教育

コンプライアンスは一般に法令順守と解釈されていますが、法の規定だけにとらわれ、厳密な規制のみ受容すると、企業としての発展性は損なわれる可能性があります。法の精神は守るべきものとし、単純な社内制度化でなく、組織が何をビジョンに機能しているのかを従業員全体が理解して、未来につながる企業へと成長していかなければなりません。

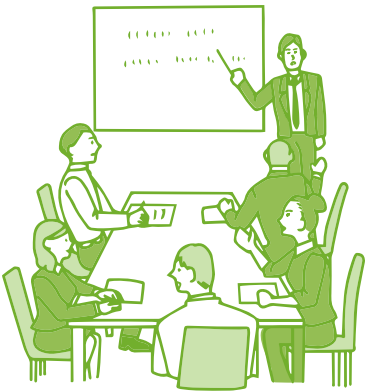
企業活動を損なう反社会的勢力に対する対応には、専従の担当者を配置して万全の態勢を取り、断固として非暴力の推進を進めています。また、グループ内の事例はもとより、ニュースの事件事例も参考として、従業員への教育・啓蒙活動を実施し認識の周知徹底を図っています。特に車両運行では、ドライバーとしての責任と自覚を携え、組織の名前を刻んだ車両を運行しているということの重要性、状況に応じた適切な対応を行っています。

情報セキュリティ管理

情報通信の進化によって、情報管理の重要性が高まっています。情報漏えいに関しては、組織としても自己防衛の的確な形を作っていくことが必要となっています。個人情報保護法や法令による規制はあるものの、やはり従業員全員が自覚と認識をもって大切な情報を保護しなければなりません。大幸グループは情報の管理をブロックごとに行い、その責任体系を明確にするとともに、必要な情報の共有という問題に取り組んでいます。

環境負荷に対する活動の目標と実績

地球環境の将来を考え、その基盤となる事業を推進する企業として、事業推進で生じるさまざまな環境負荷に対しては、全社、あるいは事業所、部署ごとでの課題を抽出し、年度ごとの取り組みを進めています。



2021年目標とその成果

部門	目 的	目標値	具体的実施方法	評価
南港処理センター	無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	★★★★
	河川水使用量の削減	月間使用量を目標値までに抑える	構内散水の節約・放流水の制限	★★★
	法規制の順守	下水排水規制値を順守する	内部分析・外部分析	★★★★
	法規制の順守	埋立基準値を順守する	内部分析・外部分析	★★★★
	地域との共存共栄の推進	近隣からの苦情ゼロを目指す	工場付近の定期清掃・近隣の意見を聞く	★★★★
泉プラント	無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	★★★★
	作業員のレベルアップ	社外研修の参加	設備に合わせた社外研修の実施	★★★
	薬品使用量の削減	薬品使用量を目標値までに抑える	処理手順の見直し・サンプル実験の実施	★★★★
	法規制の順守	埋立基準値を順守する	内部分析・外部分析	★★★★
	地域との共存共栄の推進	近隣からの苦情ゼロを目指す	工場付近の定期清掃・近隣の意見を聞く	★★★★
堺プラント	無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	★★★★
	設備機器の理解	1つの設備ごとに見直し研修を開催する	メーカーのマニュアルを使用して研修を行う	★★★
	再生品の品質確保	社内基準値を順守する	内部分析・外部分析	★★★★
	設備の月間点検	月1回実施	月間点検記録の内容に従って実施	★★★★
	重機の延命化	重機の故障ゼロを目指す	重機の定期清掃・重機点検の見直し	★★★★
本 社	社員のレベルアップ	法改正に関するセミナーに参加する	セミナーの調査、研修申込等	★★★
	電子マニフェストの推進	紙マニフェストからの移行	顧客との交渉	★★★
運 輸 部	情報公開 顧客サービスの充実	次回許可更新時に優良処理業者に認定される	許可更新での申請	★★★★
	残業時間の軽減	全運転手の月残業を目標値以内に作る	配車計画の効率化	★★★
	法令の順守	交通違反・交通事故ゼロを目指す	道交法の順守、社員教育など	★★★

★目標未達成 ★★目標ほぼ達成 ★★★★目標達成

環境データ 中間処理場排出汚泥の化学測定結果

南港処理センター

項 目	単 位	廃棄物処理法 基準値	最終処分場 受入基準	測定値		
				最大値	最大値	頻 度
カドミウム	mg / L	0.09	0.09	<0.01	<0.01	1 回 / 月
鉛	mg / L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1 回 / 月
六価クロム	mg / L	1.5	1.5	<0.05	<0.05	1 回 / 月
砒素	mg / L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1 回 / 月
セレン	mg / L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1 回 / 月
シアン	mg / L	1	1	<0.1	<0.1	1 回 / 月
熱灼減量	%	—	15	11.2	3.0	1 回 / 月

泉プラント

項 目	単 位	廃棄物処理法 基準値	最終処分場 受入基準	測定値		
				最大値	最大値	頻 度
カドミウム	mg / L	0.09	0.09	<0.01	<0.01	1 回 / 月
鉛	mg / L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1 回 / 月
六価クロム	mg / L	1.5	1.5	0.05	<0.05	1 回 / 月
砒素	mg / L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1 回 / 月
セレン	mg / L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1 回 / 月
シアン	mg / L	1	1	<0.1	<0.1	1 回 / 月
熱灼減量	%	—	15	6.5	4.1	1 回 / 月

物品のリサイクル活動

私たちは、資源の新たな可能性と価値の発見に取り組む組織として、身近なすべてのものを注意深く見つめ、再利用を図っています。

使用済み切手も、キロ単位の重さになると換金され寄付に用いることができます。回収された使用済み切手は、ボランティア組織から切手商の手を経て、切手コレクターに渡ります。このことで新たな価値を生み出し、換金・寄付によって困窮する世界の人々の役に立ちます。



事務用品や衛生用品の梱包材など、事業活動で発生するダンボールも環境資源と考え、2014年からリサイクル活動をスタートしました。2021年(1月～12月)は250kgのダンボールを再資源化。備品・消耗品の荷ほどき後、ダンボールを所定の位置に運ぶという「ひと手間」の慣習化により、従業員の環境意識が高まりを見せています。



揺るぎない環境理念に根ざして

2021年(令和3年)度の大幸工業株式会社・大阪ベントナイト事業協同組合の環境方針が示され、地球環境の保全・循環型社会構築を目指して、事業の主軸を据え組織強化を図り、顧客サービスをさらに充実することが改めて確認されました。

年度方針・環境方針

社長方針

「共創」 一、多様な人と新しい価値を「共」に「創」る
一、協力関係企業を巻き込み技術開発を進める
一、ビジネス戦略において重要な概念

環境方針

私たちは、地球の環境保全、持続可能な社会の実現が人類共通の最重要課題であることを認識し、廃棄物の適正処理および、リサイクル技術及びリサイクルシステムの研究開発に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。

ISOスローガン 「考えよう 一人ひとりができるエコ」

1 安全・安定操業の確保

- ① 教育、訓練を充実し個々のレベルアップ
 - ・社外研修会等へ積極的に参加しレベルアップを図る。
- ② 事故、トラブルの原因を徹底究明し再発防止
 - ・事故事例検討会を実施し類似事故の再発を防止する。

2 組織の強化と業績改善の推進

- ① 法令順守と情報公開
 - ・ホームページ等での情報公開を推進し企業イメージのアップを図る。
 - ・電子マニフェスト化の推進等により法令順守意識の高揚を図る。
- ② 業績改善の推進
 - ・業績改善提案制度を推進し、全員参加で業績改善に取り組む。
 - ・ISO活動を継続し、業務の標準化と文書管理の簡素化を推進する。
 - ・リサイクル製品の品質向上を図り、顧客満足向上に努める。

3 「地球を大切に」を合言葉に、循環型社会の構築を推進

- ① 車両・重機の燃料効率の向上
 - ・エコドライブの実践 ― 急発進、急加速の防止、アイドリングストップに努める。
- ② 「もったいない運動」の推進
 - ・紙使用削減、電力使用削減に努める。
- ③ 地域との共存共栄の推進
 - ・道路美化運動等に積極的に参加し、地域貢献に努める。

4 顧客サービスの充実

- ① 顧客ニーズに対応した処理システムの開発
 - ・コスト削減等の顧客ニーズに即応したリサイクルシステムの開発を推進する。

環境マネジメント・認証取得

ISO取得状況

大幸グループは、総括的な企業風土、社員個人の社会的貢献意欲を含めたあらゆる側面において、「地球・産業・暮らしの調和」を目指しています。こうした指針により、業界に先駆けてISO9001、ISO14001の認証を

取得し、環境マネジメントの社内体制を整備。リデュース・リユース・リサイクルの徹底を図るとともに、地球環境保全に役立つ技術と製品の開発に努めています。

内部環境監査

ISO9001、ISO14001取得を早期に果たした大幸グループ各事業所では、環境マネジメントシステムのPDCAサイクルに基づき、内部監査を実施。環境

実績の組織的・継続的な改善システム、実績向上の推移、法規制順守などに関する審査を実施しています。

外部環境監査

内部環境監査に加え、環境マネジメントシステムの有効性を確認するため、認証機関のBMTラダ・ジャパンによる監査を受けています。例年、審査結果をもとに指

摘事項の改善を実施し、環境マネジメントシステムの有効かつ適正な運用によって認証登録を更新しています。

〈第三者意見〉『資源リサイクルの新たな時代を切り拓く製造業としての事業』に期待いたします。

2021大幸グループCSR報告書では、大幸グループが業界各社と連携して資源リサイクルの新たな時代を切り拓き、「地域活性化」「国土強靱化」「やさしくかつ魅力的な街づくり」に貢献する決意がなされています。堺プラントで生産する再生土(ポリアース)と、コンクリート塊などから生産される再生砕石をミキシングしてできるリサイクル資源の認証を取得すること、また、製品の搬出は海上輸送(船舶)とし、運搬に掛かる二酸化炭素の排出量を大幅に低減することを目指しています。これらの取り組みが、建設副産物対策 近畿地方連絡協議会 令和3年度 近畿建設リサイクル表彰 再資源化部門【大賞】を受賞されたことは、大きく評価されます。

また、事業活動継続の最大の課題としてコロナ対策を展開し、これを契機に進めた業務の電子化によ

り、業務効率化や顧客サービス向上につながる成果を上げておられます。そして、従業員研修などの企業内教育、市民参加の寄せ植え教室といった文化活動、循環型ハイブリッドソイル(H.B.S)事業推進のためインターシップ実習生の受け入れなどを実施。さらに、大学授業や社員研修における、持続可能な開発のための教育(ESD)の教材としてCSR報告書を提供する取り組みも続けておられます。これらは現代社会においてますます必要不可欠であり、健全かつ強い組織づくりの要になると考えられます。大幸グループの更なる発展に期待します。

京都大学 大学院地球環境学堂
教授 **勝見 武**



CSR報告書を使った、持続可能な開発のための教育(ESD)への支援活動



教育プログラム(ESD)の流れ

国連決議の「持続可能な開発目標(SDGs)」や、国策である「地域循環共生圏」、「ローカルSDGs」、「地球温暖化防止」、「防災減災対策」、「国土強靱化」などは、地盤環境系大学の工学的研究や就職活動で優先される重要なキーワードです。また、企業の持続可能な成長戦略に必要な

な「トップコミットメント」、「環境(E)/社会(S)/ガバナンス(G)経営」、「BCP(事業継続計画)」、「新型コロナウイルス対策」、「地域貢献活動」などのキーワードも、持続可能な成長戦略に必要な基礎知識です。



▲「CSR報告書」表紙・裏表紙

大学授業や社会人研修でCSR講座を開催する意義

- CSR/ESG/SDGsを意識すると「企業の社会的責任(CSR)」
- 「環境社会企業に投資(ESG)」
- 「循環型経済でよい社会(SDGs)」となります。

社会経験が浅い大学生や新社会人に180~360分の授業でCSR/ESG/SDGsを大まかに読み取ることができるよう編集しているのが大幸グループのCSR報告書です。大学生や新社会人はCSR報告書を精査・評価することでCSR/ESG/SDGsが理解できます。SDGs達成を目指したトップ経営者のコミットメントとESG経営を、CSR活動報告書から精査し、企業の持続可能な成長戦略を評価することができれば、実践的にCSR/ESG/SDGsなどのキーワードや基礎知識の理解が深まります。

CSR講座開催の効果

2021年度までに大学発CSR/ESG/SDGsを学ぶCSR講座は、1講座180分で7回(北大、阪大、長崎大)、環境省切川卓也 課長補佐による特別講演が長崎大で開催されました。授業前の学生アンケートではCSR/ESG/SDGsの認知度は50%でした。企業の社会的責任(CSR)への関心が世界的に高まるにつれてCSRの統一規格が求められており、ISO26000(国際標準化機構の社会的責任規格)に準拠した企業や、責任ある企業活動として適切な情報開示を行うため、「GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード2020」の中核(Core)オプションに準拠した報告を行っている企業もあります。大幸グループでは、引き続きCSR報告書を使った持続可能な開発のための教育(ESD)への支援活動を行ってまいります。

大幸工業株式会社

本社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

東京支店

〒105-0003 東京都港区西新橋1-18-6
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負 流動化処理土の販売
一般貨物自動車運送事業 特定旅客自動車運送事業
土木、建築工事の施工及び請負 各種清掃業

大阪ベントナイト事業協同組合

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004

汚泥・廃酸・廃アルカリの中間処理、流動化処理土の製造
組合員の取扱う汚泥の共同処理
組合事業の知識普及をはかるための教育・情報提供

堺大幸工業有限会社

〒590-0063 大阪府堺市堺区中安井町3-4-10
TEL 072-238-3059

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

大幸工業株式会社 泉佐野

〒598-0007 大阪府泉佐野市上町2丁目2-11
光ビル2階
TEL 072-429-9147 FAX 072-429-9146

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負 一般貨物自動車運送事業
ビルメンテナンス業

北部大幸工業有限会社

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-5-13
TEL 06-6226-0882

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

有限会社大幸リース

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0005 FAX 06-6686-0002

機械のリース、運搬車両のリース



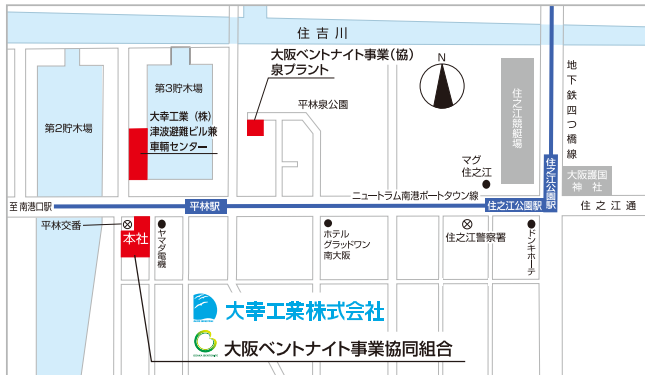
大幸工業株式会社

本社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目18番6号
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

大阪ベントナイト事業協同組合

本社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004



大幸グループ2021CSR 報告書 アンケート

大幸グループCSR事務局宛 E-mail: sea-mew@daiko-group.com
FAX: 06-6686-0002

皆様のご意見・ご感想を、今後の活動や報告書作成に生かして参ります。
お手数ですが、下記のアンケートにご回答頂き、FAX や E メールなどでご返送頂ければ幸いです。

Q1 この報告書をどのようにしてお知りになりましたか。

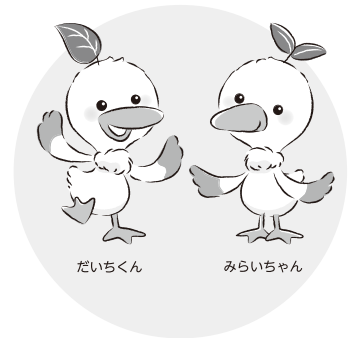
- ☐当グループからの送付 ☐当グループウェブサイト ☐当グループ以外のウェブサイト ☐当グループ社員から
☐セミナー・講演会 ☐その他 []

Q2 大幸グループ 2021CSR 報告書についての評価をお聞かせ下さい。

- | | | | |
|------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| 1. 全体的な印象 | ☐ 良い | ☐ 普通 | ☐ 悪い |
| 2. 分かりやすさ | ☐ 分かりやすい | ☐ 普通 | ☐ 分かりにくい |
| 3. 内容の充実度 | ☐ 充実している | ☐ 普通 | ☐ 物足りない |
| 4. 情報量について | ☐ 適切 | ☐ 不足 | ☐ 多い |
| 5. デザイン | ☐ 良い | ☐ 普通 | ☐ 悪い |

*悪かった点、分かりにくかった点等をお聞かせ下さい。

()



Q3 この報告書の中で関心をお持ちになった内容をご選択ください。(複数選択可)

- ☐Top Message ☐特集1／新時代に向けての取り組み ☐特集2／ダイバーシティ&インクルージョン
☐特集3／新型コロナウイルス対策 ☐地域・社会貢献活動、インターン(ハイブリッドソイル)
☐社内環境整備と人材育成 ☐環境対策協議会(KTK)の活動 ☐労働安全・コンプライアンス活動
☐環境負荷軽減 ☐環境方針・認証 ☐教育への活用 SDGs教室

*その理由をご記入ください。()

Q4 大幸グループのCSR活動や報告書について、その他ご意見・ご感想などがあればご記入ください。

Q5 あなたのプロフィールについてお聞かせ下さい。

- ・お読みになった立場 ☐お客様・お取引先 ☐企業のCSR・環境ご担当者 ☐当社グループの近隣にお住まいの方
☐行政機関 ☐金融・投資機関 ☐NPO・NGO ☐研究・教育機関 ☐学生
☐報道機関 ☐当社グループ社員・家族 ☐その他 []
- ・年代 ☐10代 ☐20代 ☐30代 ☐40代 ☐50代 ☐60代 ☐70代以上
- ・性別 ☐男性 ☐女性

Q6 次回のCSR報告書の発送を希望されますか。

- ☐はい ☐いいえ

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記にもご記入ください。
※次回のCSR報告書の発送を希望される方は、お名前とご住所を必ずご記入ください。

お名前 ご職業(勤務先・学校名) 連絡先電話

ご住所(□ご自宅 □勤務先等) 〒

メールアドレス

ご記入頂いた個人情報及び内容は、今後のCSR活動の参考のみに利用し、他の目的には利用いたしません。



大幸グループ 2021CSR 報告書

アンケートへのご意見、ご感想を
お聞かせください

大幸グループ2021CSR 報告書をご覧頂き、
ありがとうございました。

皆様からご意見・ご感想をお聞かせ頂き、
当グループの企業活動及び今後の報告書づくりに
活かして参りたく思います。お手数ですが、
裏面にご記入の上お送り頂ければ幸いです。

FAX:06-6686-0002

【お問い合わせ先】

大幸グループ CSR 事務局

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002